

「令和6年度 門真市立学校いじめ防止対策審議会」における委員からのご意見
(事務局取りまとめ)

	ご意見・ご質問の要旨	当時の回答・その後の取組等
1	文科省が示す「SSWの中学校区に1人」配置を達成したとのことだが、配置したSSWの活用ビジョンやSSWに求めるものは？	<ul style="list-style-type: none"> ・SSW活用ガイドラインの試案を小中学校に示し、市としての方針を示した ・ケース会議における助言等を中心に活用 ・ケース検討だけでなく、組織的対応に向けた助言等も訪問の際に行った。
2	年度当初に校内研修を実施し、報告を義務付けているが、教職員からの質問や意見も含まれ、市教育委員会の研修資料のバージョンアップにつながるのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・法の定義に基づいたいじめの認知や組織的対応等について、ワークを交えた内容。 ・教職員の反応や見込まれる効果等を管理職から報告させる。 ・ワークの変更や、学校からの報告を受けたバージョンアップを行った。
3	SC・SSWの配置は拡充されてきたが、見立てや支援の検討段階で、専門的な視点からのアプローチを行うためには、SC・SSWへの研修やガイドラインなど、より実践的な活用に向けた取組みが必要	<ul style="list-style-type: none"> ・府からSCSV・SSWSVの配置は受けており、SC・SSWへの助言も行っている。 ・配置頻度等を踏まえ、事案の重篤度や特徴に応じてSC・SSWを効果的に活用。 ・SC連絡会やサポートチーム連絡会等を通して実践的な活用に向けた協議を行った。
4	SC・SSW・ロイヤーなど、専門家の多職種連携が重要であると考えているが、門真市において、専門家同士が集まって認識を共有する場は？	<ul style="list-style-type: none"> ・市子ども悩み相談サポートチームに、SSW・カウンセラー・ロイヤー・精神科医がおり、連絡会を実施している。 ・府SCとSSWとの連携等、勤務曜日や頻度によって、日常連携が困難な実情もある。その場合も、学校を通して情報が切れないように接続している。
5	教員の抱え込み・認識不足等による、いじめの認知漏れや対応の甘さが起きがちだが、いじめ対応の要、ケース会議の中心となるコーディネーター教員の育成が重要では？	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の抱え込みや、いじめに対する認識不足等を防ぐため研修や校内体制の整備を行い、いじめ認知等に関する教員のアンテナは高まっている。 ・コーディネーターについても、連絡会や生徒指導研修をとおしてスキルアップを図っている。
6	スクリーニングはあくまでも補助ツ-	<ul style="list-style-type: none"> ・SC・SSWがスクリーニングシートのチェッ

	<p>ルである。スクリーニングシートのチェックに SC・SSW の時間を割くよりも、子どもと向き合う教職員の気づきのアンテナを磨くための SC・SSW 活用を推進すべきでは？</p>	<p>クにあたる時間を、別途市費で予算措置。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の気づきのアンテナを高めるため、市費で SC による「SOS の受け取り方研修」を実施している。 ・生徒指導研修をとおして気づきのアンテナを高めるスキルアップを図り、校内伝達研修等を通して他の教職員へも共有。
7	<p>スクリーニングで振るいにかけるよりも、生徒指導上の記録を漏らさずに集約し引き継いでいくデータベース化が必要なのでは？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導上の記録をデータベース化する必要性は感じており、スクリーニングシートを校務支援システムに格納する等、取組を開始している。 ・月ごとに紙様式の報告を基に集約し引き継いでいる。データベース化による効率化については、校務支援システムの標準化による機能強化の状況を注視し、調査研究していく。
8	<p>直接的ないじめでなくても、居場所のなさや生きにくさを感じている子どもに、教員が気付ける力をつけるための研修と、教員の力量格差を埋めるためのシステムとしてのスクリーニング活用が必要では？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全安心な環境作りや発達支持的生徒指導の推進を求め、様々な背景を抱える子どもたちの見立てについてスキルアップするための生徒指導研修を実施。各伝達研修等で全教職員にも共有。 ・力量格差だけでなく抱え込みを無くす上で、スクリーニング活用は役立っている。
9	<p>委員からの指摘内容に、中長期的な目標や施策が含まれる。学校だけでなく教育委員会においても、提言内容含めて引き継いでいくことが重要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な施策を整理統合して現在の「チーム学校支援体制充実事業」を行っている。事業立案当初の意味や提言内容等を引き継ぎながら事業検討を行っていく。
10	<p>身近なところで SNS を通じて性的動画や写真が拡散される事案が非常に増えている。拡散先の確認、拡散防止措置、証拠保全、警察との連携等、対応について教育委員会が方針を示していく必要がある。また、被害者・加害者・拡散者などの背景要因や家庭環境等も含めて見立てて対応する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS トラブル予防授業を全校で実施し、そこで現在のネット・スマホ等をめぐる問題について学び、適切な対応を行うためのスキルアップを図っている。 ・SNS トラブルだけでなく、生徒指導事案が生じた際は、加害被害その他関係者の背景要因を含めたアセスメントを行うことは定着してきている。
11	<p>現在のいじめは、大人の見えない所で深刻化する。いじめを止められるのは子どもだから、子ども達自身が主体的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・弁護士によるいじめ予防授業をはじめ、各校においていじめについて考える取り組みを実施し、門真市で推進している子ども

	<p>にいじめ防止について考える取組が必要では？</p>	<p>主体の学びに沿って、子どもたち自身がいじめ問題について考える機会を作っている。(児童会や生徒会が具体的な取組を行う学校も多い。)</p>
12	<p>いじめの認知件数が市全体で増加していることは、積極的認知がなされていることの表れと捉えるが、認知件数が極端に低い学校や、3ヵ月後の解消状況の確認が十分でない学校はないか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知件数が極端に少ない学校はほとんどないが、いじめアンケートの結果をもとに集中的に認知を行う学校もあるため、日頃からの見取りの必要性を指導している。 ・解消については、3ヵ月後確認だけでなく、この間の状況見守りや必要に応じた声掛けなども助言し、意識が進んでいる。